

令和7年度二本松城跡第33次発掘調査

1. 遺跡名 二本松城跡（二本松市郭内四丁目地内）
2. 時代・種類 室町～江戸時代 城館跡（平山城）
3. 調査場所 二本松市郭内四丁目地内 搦手門から北に延びる石垣
4. 調査面積 第33次 約300㎡対象：掘削面積約60㎡
5. 調査期間 令和7年6月2日(月)～令和7年6月27日(金)予定
6. 調査主体 二本松市教育委員会
7. 調査指導者 二本松城跡整備検討委員会
8. 調査目的 二本松城跡発掘調査計画および整備計画に基づき、年次計画による学術調査を実施し、今後の城跡保存および整備に活用する。
今回は、搦手門から北に延びる石垣の露出展示のための資料収集を目的とする。

9. 調査結果概要

第33次調査は、二本松城跡搦手門から北に延びる石垣を調査対象とした。この石垣は、平成13年に調査が実施され、高さ1～2m、段数4段で、延長54.8mの石積が埋没していることが確認されている地点である。今回、埋没している石垣の露出展示等整備方針を検討するため1～7Tを設定して調査を実施した。

基本層序 L1は表土、L2は自然堆積層、L3は崩落土堆積層、L4は整地層、L5は火砕流層（地山）、L6の花崗岩風化層（地山）が確認された。

調査結果

1T 調査区南側に設定した南北1m×東西4mのトレンチである。石積は、北へ向かってのぼるように築かれている。調査の結果、斜面を成形し、さらにL6を削平して地山である花崗岩風化層から高さ180cm・4段ほどの石を積んでいることが確認された。一辺45cmの花崗岩切石を根石とし、50cmほど埋め戻し始築時の生活面としていることが判明した。



1Tの石積（西から）

2T 1Tの北側に設定した南北2m×東西5mのトレンチである。調査の結果、1Tと同様に斜面を成形していることが確認され、L6を削平して平坦面をつくりだして石を据えていることが確認された。高さは150cm・3段で、一辺50cmの花崗岩切石を根石とし、50cmほど埋め戻し始築時の生活面としていることが判明した。天端石は崩落しているとみられる。また、トレンチ北側では切石が崩落している状況も確認された。



3Tの石積（西から）

3T 2Tの北側に設定した南北1m×東西5mのトレンチである。調査の結果、斜面を成形していることが確認され、L5を削平して平坦面をつくりだして石を据えていることが確認された。高さは155cm・4段で、一辺30cmの花崗岩切石を根石とし、40cm埋め戻して整地していることが判明した。また、天端石は崩落したとみられ、L4の上に約90cm土砂が堆積している。

4T 3Tの北側に設定した南北2m×東西10mのトレンチである。調査状況から西に南北1m×東西2m拡張している。調査の結果、地形に合わせた石積入角部が確認された。3Tと同様に斜面を成形していることが確認され、L5を削平して平坦面をつくりだして石を据えていることが確認された。高さは155cm・4段で、一辺50



cmの花崗岩切石を根石とし、40cm埋め戻して整地していることが判明した。また、石垣の前面に崩落した石材が多く確認され、崩落したまま放置されたことがわかる。崩落した時期は不明だが、それ以後、土砂が180cm堆積していることが確認された。

4Tの石積入角部(西から)

5T 4Tの北側に設定した南北2m×東西5mのトレンチである。調査状況から石垣より西は幅1mとし、2

m拡張している。調査の結果、4Tと同様に斜面を成形していることが確認され、L5を削平して平坦面をつくりだして石を据えていることが確認された。高さは175cm・5段で、一辺45cmの花崗岩切石を根石とし、40cm埋め戻して整地していることが判明した。また、石積の前面に崩落した石材が確認され、この上に95cmの土砂が堆積していた。



5Tの石積(西から)

6T 5Tの北側に設定した南北1m×東西5mのトレンチである。調査の結果、石積は1段のみ確認され、斜面には築石は確認されなかった。石垣の前面に崩落した石材の状況から、崩落したまま放置されたことがわかる。

7T 6Tの北側に設定した南北2m×東西3mのトレンチである。調査の結果、長さ125cm、幅60cm、厚み20cmの石材が立った状況で確認された。当初は崩落した石と考えていたが、精査したところ掘り方が確認され、その内部に、礫を敷いて調整していることから据えられていることが判明した。したがって、石垣の終わりを示す石の可能性が高い。



7Tの築留の石(西から)

まとめ

- ・石垣の延長が、3.2m北に延び総延長58mであることが確認された。
- ・石垣北端の状況が今回初めて明らかになった。
- ・石垣の高さは、1Tで根石を含め180cm、5Tで175cmあるため、その他の地点は天端石が崩落している可能性が高い。
- ・石垣の構築では、根石として30cmから50cmの花崗岩切石を盛土整地層で埋めている。背面には、裏込石と呼ぶほどの玉石は入っておらず、裏の空間に調整石を入れるぐらいの状況である。
- ・4Tの崩落土及び堆積土は、180cmあり、3T、5Tでも90cm以上堆積している。
- ・石垣前面の平坦面(犬ばしり)の幅は、平均1.7~8.0mであることが確認された。

なお、詳細については十分検討し、報告書において詳述する。

用語解説 T・・・トレンチ(調査用の溝) L・・・堆積土